08009c4

モモ・ウメ・サクラ等の脅威！侵入害虫クビアカツヤカミキリの予防・診断・防除技術の高度化

１　代表機関・研究統括者

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　　上地　奈美

２　研究期間：令和８年度～令和１１年度（４年間）

３　研究目的

クビアカツヤカミキリによるモモ、ウメ、サクラ等の被害拡大を防ぐため、予防・診断・防除技術を高度化するとともに、地域の発生状況に応じた総合防除体系を構築する。

４　研究内容及び実施体制

①　飛来・産卵段階に着目した侵入・定着抑制技術の高度化

蛍光塗料、薬剤含有ネット等を活用した飛来・産卵抑制技術の実用性を高め、効率的に侵入・定着を防ぐ技術を開発する。

（栃木農研セ、和歌山県（かき・もも研、うめ研））

②　発生地域における拡散抑制・被害低減に向けた技術体系の高度化

既存の物理的・化学的防除技術を組み合わせ、樹種や被害状況に応じた実践的な防除体系を構築する。

（大阪環農水研、徳島農林水産総合技術支援セ、埼玉県農業技術研究セ）

③　被害把握・防除判断手法の高度化

フラス診断や地理情報解析を活用した早期発見・被害予測技術を開発し、発見・診断から防除判断へ至る一連のフローを構築する。

（農研機構・植防研、果茶研）

５　最終目標

予防・診断・防除技術を高度化するとともに、それらを統合した実践的な総合防除体系を構築する。その成果を自治体や防除担当者が活用できる技術指針として提示する。

６　期待される効果・貢献

クビアカツヤカミキリによる果樹やサクラの被害拡大を抑制し、果樹生産の維持と景観資源の保全に貢献する。また、防除の効率化と被害低減により、自治体や生産現場の対策コスト削減が期待される。

【連絡先　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　問い合わせフォーム
https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html】

08009c4	モモ・ウメ・サクラ等の脅威！侵入害虫クビアカツヤカミキリの予防・診断・防除技術の高度化

・クビアカツヤカミキリの分布拡大により、モモ・ウメ等の果樹や、景観樹木のサクラ類で被害が深刻化
・被害の多様化・侵入リスクに対応した対策技術の統合や運用のための体系が必要





【達成目標】
●対策技術（予防・被害拡散阻止）の更なる高度化
●発見・診断から防除対策に至る一連の流れを示す

○研究内容

中課題1　飛来・産卵段階に着目した侵入・定着抑制技術の高度化
（栃木農研セ、和歌山県）



中課題2　発生地域における拡散抑制・被害低減に向けた技術体系の高度化
（大阪環農水研、徳島農林支援セ、埼玉農技研）



中課題3　被害把握・防除判断手法の高度化
（農研機構・植防研、果茶研）



予防＋診断＋防除技術

総合的な防除体系

社会実装・実用化される技術（研究期間終了時、R11年度）

●発生段階に応じた対策の選択が可能な実践的な総合防除体系の構築
●当該成果を自治体や防除担当者が活用できる防除指針として提示

波及効果、農林水産業・食品産業への貢献

●モモ、ウメ等の果樹生産と、サクラ類の景観を守る
●地域特性や樹種・被害段階に応じた防除判断が可能になり防除の効率化と被害低減に寄与する
●自治体や生産現場の対策コストが削減される

